

講義名	企業文化論			授業形態	
担当教員	瀧本 隆弘	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

**主題と概要**

企業文化とは、企業のメンバーによって信じこまれた価値観、考え方、行動パターンの総体である。講義では、この文化という組織におけるソフトの側面を学ぶ。文化は、形のない、曖昧な存在である。しかし、企業が環境の変化の中で生き残るために、自らを変革し、環境に適応できる存在となるうえで不可欠のものである。つまり経営戦略策定の重要な要素である。従ってここでは、企業文化がいかに創造され、いかに浸透し、いかに変化していくのがあるいはいかなる文化が企業には存在し、我々はいかにその文化を管理し、さらには戦略にまで高めていくのかを考察する。

**到達目標**

企業文化とは「社員が共通に持っている理念や価値観で、社員の行動を方向づけるもの」であり、新しい時代の企業が目指す望ましい観念・制度・活動の体系の構築、特に良い企業（エグゼレントカンパニー）のあり方について学ぶ講義である。

この学びを通して、我々や社会にとって、良い企業とはいかなる企業かを考え、良い企業の企業文化を知り、消費者として、企業人として、また生活者として、企業といかに関わっていくか考えることができるようになる。さらには、将来さまざまな立場で、企業とどのように付き合っていくかを、自ら考えられるようになることが目標である。

また、経営学の視点から、経営戦略としての企業文化の在り方 について考えることで、企業が実体の無い文化をいかに利用し、企業競争における生き残りを目指しているかが理解できるようになる。

**提出課題**

- 講義の中頃に、中間レポートの提出を求める可能性がある。ただし、下記の課題提出の回数が増えた場合(5回以上)は、実施しない。
- 簡単な課題提出を求める。(4回・月1回程度)  
講義内容に沿ったテーマで、講義の復習となるようなテーマが選択される。講義はケースを使って進められるので、正解を求めるのではなく、問題解決型の思考方法で課題を作成することが求められる。
- 定期試験はマークシート方式のテストで実施の予定。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法**

課題の解説については、クラス全体に向けて行う。

履修者が多い場合は、講義は流科ポータルを通じて実施する。

履修者が30名以下の場合は、個別に講義を行い、流科ポータルの自々のメールアドレスへ返信する。

**評価の基準**

以下の総合評価を行う。

定期テスト・試験実施（60％）  
後期中頃の中間レポート（20％）  
数回の課題提出（20％）

ただし、課題提出の回数が多くなった場合（5回以上）は、中間レポートは実施せず、課題提出の比率を40%にする。

出欠調査は行わないので、出席点はない。

**履修にあたっての注意・助言他**

- この講義は、講義中に提示されるパワーポイントのスライドを中心に、小テストは特に指定しない。講義内容のスライドはすべて流科ポータルからダウンロードできるようにしてある。スライドのアップやダウンロードのタイミングは講義中に指示する。プリント資料などを、必要なものすべてダウンロードするようにしてある。こちらからプリント配布は一切行わない。講義開始までにダウンロードの方法を確認しておくこと。
- 出席調査は行わず、数回の課題提出で出席点に代える。
- 経営学関連の講義をある程度履修しているほうが望ましい。
- 中間試験は行わず、中間レポートを実施する。ただし、課題提出の回数を多くして（5回以上）、中間レポートを中止する場合もある。
- 課題、中間レポートはすべて流科ポータルの「レポート提出」を通じて提出する。流科ポータルの利用方法を確認しておくこと。
- 講義中の連絡や変更、その他重要な事柄は講義中に口頭で告知した後、

**教科書**

・教科書は指定しない。

参考文献				
・企業文化 コーポレートカルチャー	松村洋平	学文社	2530	9784762014956
・企業文化	E. H. シャイン	白桃書房	3850	9784561236759
・マンガでやさしくわかるCSR	足立 辰雄	日本経済団体マネジメントセンター	1650	9784820719816

**その他**

『チキスト企業文化』 張虹 良文堂  
『組織文化・経営文化・企業文化』 梅沢正 同文館出版  
『企業文化とは何か』 佐々木晃彦 北樹出版  
『企業文化の革新と創造 会社に知性と心を』 梅沢 正 有斐閣  
『企業文化の創造』 寿手福 梅澤正  
『企業文化論を学ぶ人のために』 梅澤正・上野征洋編 世界思想社  
『多国籍企業文化』 安室重一 文眞堂  
『グローバル化のなかの企業文化 国際比較調査から』 石川晃弘・佐々木正道 中央大学出版部  
『企業文化力と経営新時代』 藤又寿良・篠原勲 同友館  
『企業文化原論』 村山元英 文眞堂

**授業計画**

- 企業文化の創造  
企業文化が求められる背景
- 企業文化の概念  
文化とは何か  
経営理念
- 企業文化の概念  
組織文化と経営文化  
社風と職場風土
- 企業評価  
経済性による評価  
人間性による評価
- 企業評価  
社会性による評価  
環境性による評価
- 企業の社会的責任
- 良い企業とは（エグゼレントカンパニー）
- コーポレート・アンデンティティ
- コーポレート・アンデンティティ（事例研究）  
1.0 企業の文化戦略（メセガ）（事例研究）  
1.2 企業の社会貢献（フイランソロビ）  
1.3 企業の社会貢献（フイランソロビ）（事例研究）  
1.4 環境経営（エコ・ビジネス）  
1.5 環境経営（エコ・ビジネス）（事例研究）

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

<input type="checkbox"/> A: PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> I: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> W: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> O: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> C: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K: その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

必要に応じてケースを使用して事例研究を行う。

**準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

講義で使用するスライドや資料は流科ポータルにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には講義スライドをポータルにアップする。

講義中にダウンロードの指示があったら、次の講義に合わせて随時予習すること。また、ダウンロードは定期試験終了時まで可能にしてあるので、復習や試験勉強にも使用すること。講義資料や課題テーマについて準備や確認を行うことを前提として、予習は講義前2時間、復習は講義2時間は、時間をかけてほしい。

課題提出を求めているが、講義内容に沿った内容の課題テーマが設定されているので、課題を作成することが復習の代わりになる。また、できるだけ自分の目で観察したこと、体験したことを課題として提出できるよう、テーマを工夫するので、実習、フィールドワークのつもりで取り組んでほしい。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

この講義では、様々な業界における企業経営の仕組みや組織行動の現状分析を行い、仮説、検証を通して答えを導き出す問題解決型思考を養う。これにより、企業や組織のリーダーに求められる、企業経営の具体的な改善策や解決策の提案ができるようになる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

講義へのITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。

- 学生のモチベーションを上げる。
- ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことができ、学生の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業でなく、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることも学生の学習に対するモチベーションを高める。
- 学生も教員も楽しみながら、効率的な学習ができる。
- 学生も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えづらいことを、画像や動画などで視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、楽しみながら効率的な学習を進めることができる。
- 学生が授業に積極的に参加しやすくなる。

**実務経験の有無及び活用**

実務経験なし

**備考**

以下のオフィスアワーを利用して教員とコンタクトをとるように。

オフィスアワー： 研究棟 1階 111号研究室 月・木 12:10～12:50

問い合わせについては以下の公開された電子メールでも対応する。  
瀧本隆弘 メールアドレス: Takahiro\_Hanamoto@red.unds.ac.jp

不明な点は担当教員に必ず問い合わせること。